

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

授業科目 (科目ID)	コミュニケーションⅡ 20t232／20s236		担当教員 (実務経験)	未定 有 ☐ 無 ☐		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	1年次からの応用として、コミュニケーションを通じて、課題克服への積極的挑戦から自信に繋げる。					
到達目標	自主的に話題性をもって、人に関わり、立ち位置を確立できるようになる。					
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	レポート 20% 提出物 20% その他 60%(受講姿勢、受講態度等30%、担当所見30%)			
	レポート	20%				
	小テスト	%				
	提出物	20%				
	その他	60%				
履修上の 留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	就職活動に向けて①		履歴書の記入方法		
	2	就職活動に向けて②		自己分析 自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか		
	3	就職活動に向けて③		業界研究 進みたい分野においての調査		
	4	就職活動に向けて④		就職情報サイトの利用方法		
	5	面接試験に向けて①		心構え、様々な面接試験について		
	6	面接試験に向けて②		入退室、面接試験体験①		
	7	面接試験に向けて③		入退室、面接試験体験②		
	8	一般常識①		漢字(読み・書き)		
	9	一般常識②		丁寧語、敬語		
	10	一般常識③		挨拶、接遇		
	11	一般常識④		マナー、一般常識(応用)		
	12	一般常識⑤		ペア対話、グループ対話		
	13	まとめ①		確認テスト(読み・書き・丁寧語・敬語)		
	14	まとめ②		確認テスト(挨拶・接遇)		
15	まとめ③		確認テスト(マナー・一般常識応用)			

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

授業科目 (科目ID)	カレッジイベントⅡ 20t233／20s237		担当教員 (実務経験)	未定 有 ☐ 無 ☐		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。					
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。					
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料を配布。					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	レポート 20% 提出物 20% その他 60%(受講姿勢、受講態度等30%、担当所見30%)			
	レポート	20%				
	小テスト	%				
	提出物	20%				
	その他	60%				
履修上の 留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	カレッジイベント内容①		イベントの内容説明		
	2	役割分担		執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	3	リハーサル		各種目のルール、及び実践確認		
	4	イベント実施		スポーツ大会		
	5	振り返り		レポート作成、提出		
	6	カレッジイベント内容②		イベントの内容説明		
	7	役割分担		執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	8	リハーサル		各種目のルール、及び実践確認		
	9	イベント実施		スポーツフェスティバル		
	10	振り返り		レポート作成、提出		
	11	カレッジイベント内容③		イベントの内容説明		
	12	役割分担		執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定		
	13	リハーサル		執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備		
	14	イベント実施		学園祭		
15	振り返り		レポート作成、提出			

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
PHⅡ／TR・IN・CO・SBⅡ コース

授業科目 (科目ID)	ジュニアスポーツ指導実習 20t230／20s238	担当教員 (実務経験)	古本 真希 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	選択(PHⅡ)／必修	単位数	2単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	幼児へのスイミングレッスンを計画→実施→反省を行うことで、指導技術を習得する。また、実際に幼児に携わることでスイミング技術だけではなく、幼児へのスポーツ指導も学ぶ。				
到達目標	グループワークを通して、インストラクターの役割への理解。実習を通して、レッスンの計画方法の立案、子ども達への対応ができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	％	レポート・提出物の内容や期日がしっかり守られ、提出されたら評価する。 その他は指導案作成中や指導中の姿勢で評価する。		
	レポート	20％			
	小テスト	％			
	提出物	20％			
	その他	60％			
履修上の留意事項	指導計画案の作成や反省会は教室で実施し、グループワークを中心に進めます。プールでの班別指導実習が中心です。実習後には反省→日誌の記入→提出となります。初回は教室でオリエンテーションを行います。水に慣れていない幼児も多いので、計画の段階から責任感を強く持って授業に臨んでください。実習が始まれば、毎回が本番となります。常に緊張感を忘れず、実習を行ってください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション／指導計画の作成	オリエンテーション／指導計画・指導案作成		
	2	指導計画の作成	指導実習計画・指導案作成		
	3	指導計画案の予行演習	指導技術(補助・道具の利用方法)の練習		
	4	指導計画案の予行演習	指導技術(補助・道具の利用方法)の練習		
	5	指導計画案の作成・見直し	指導実習計画・指導案見直し		
	6	指導計画案の予行演習	指導実習の練習・指導案見直し		
	7	指導計画案の予行演習	指導実習の練習・指導案見直し		
	8	指導実習	幼稚園A①ー1		
	9	指導実習	保育園実習予定		
	10	指導実習	幼稚園A①ー2		
	11	指導実習	保育園指導実習予定		
	12	指導実習	幼稚園A①ー3		
	13	指導実習	保育園指導実習予定		
	14	指導実習	幼稚園A②ー1		
	15	指導実習	保育園指導実習予定		
	16	指導実習	幼稚園A②ー2		
	17	指導実習	保育園指導実習予定		
	18	指導実習	幼稚園A②ー3		
	19	指導実習	保育園指導実習予定		
	20	指導実習	幼稚園A③ー1		
	21	指導実習	幼稚園B①		
	22	指導実習	幼稚園A③ー2		
	23	指導実習	幼稚園B②		
	24	指導実習	幼稚園A③ー3		
	25	指導実習	幼稚園B③		
	26	指導実習振り返り	幼稚園AB実習反省まとめ		
	27	指導実習振り返り	幼稚園AB実習反省まとめ		
	28	実習	保育園指導実習予定		
	29	実習	保育園指導実習予定		
30	指導実習振り返り	全体まとめ			

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

授業科目 (科目ID)	二次研究課題 I 20t239／20s240		担当教員 (実務経験)	濱田 光 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	4単位
授業形態	講義		授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。					
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。			
	レポート	60%				
	小テスト	%				
	提出物	20%				
	その他	20%				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	評価の目的、意義および役割	現場に必要な評価			
	2	姿勢・アライメント・筋委縮	姿勢の評価基準・指標、スポーツ活動と姿勢			
	3	姿勢・アライメント・筋委縮	筋委縮の観察、計測の目的と意義			
	4	関節弛緩性	関節弛緩性検査の目的、意義および検査方法			
	5	体力測定	体力測定(概論)、一般青年、成人を対象			
	6	体力測定	少年を対象、中・高齢者を対象			
	7	筋タイトネス	筋柔軟性・筋タイトネスとその検査測定の意義			
	8	全身持久力と敏捷性	全身持久力の目的と意義および手技と測定指標			
	9	全身持久力と敏捷性	敏捷性・協調性の目的と意義および具体的手法			
	10	関節可動域	関節可動域測定の目的、意義および検査方法、留意点			
	11	徒手筋力検査	徒手筋力検査の目的と意義			
	12	徒手筋力検査	判定基準、検査上の留意点、検査手順			
	13	身体組成	目的と意義、および具体的手法			
	14	筋力および筋パワー	目的と意義および検査測定方法			
15	筋力および筋パワー	機器による筋力評価				

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学

別紙1

[illegible]

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

授業科目 (科目ID)	二次研究課題Ⅱ 20t240／20s241	担当教員 (実務経験)	濱田 光 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	2年・集中	必修・選択区分	選択	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	20%			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	アスリハの基本的な考え方(1)	段階的なプログラム処方		
	2	アスリハの基本的な考え方(2)	リスク管理／競技特性(体力特性・動作特性)		
	3	アスリハの基本的な考え方(3)	再発予防への配慮		
	4	アスリハの基本的な考え方(4)	安定性、可動性、協調性		
	5	足関節捻挫へのアスリハ(1)	概要説明		
	6	足関節捻挫へのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導		
	7	足関節捻挫へのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案		
	8	大腿後面肉離れへのアスリハ(1)	概要説明		
	9	大腿後面肉離れへのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導		
	10	大腿後面肉離れへのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案		
	11	前十字靭帯損傷へのアスリハ(1)	概要説明		
	12	前十字靭帯損傷へのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導		
	13	前十字靭帯損傷へのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案		
	14	肩関節前方脱臼へのアスリハ(1)	概要説明		
	15	肩関節前方脱臼へのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導、アスリハプログラムの立案		

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学

別紙1

[illegible]

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

授業科目 (科目ID)	二次研究課題Ⅲ 20t241／20s242	担当教員 (実務経験)	濱田 光 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	2年・集中	必修・選択区分	選択	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	20%			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	コンディショニングの概念	コンディショニングの概念とその要素		
	2	トレーニングの基礎	超回復、ATP産生について		
	3	トレーニングの基礎	筋繊維タイプ、筋収縮様式について		
	4	トレーニングの原則	7原則の確認		
	5	ピリオダイゼーション	GAS理論、期分けの分類		
	6	トレーニングカテゴリー	トレーニングの分類		
	7	レジスタンスTr・プライオメトリクス	具体的種目の確認、その目的と効果		
	8	パワーエクササイズ	具体的種目の確認、その目的と効果		
	9	アジリティーTr	具体的種目の確認、その目的と効果		
	10	エンデュランストレーニング	具体的種目の確認、その目的と効果		
	11	コーディネーショントレーニング	具体的種目の確認、その目的と効果		
	12	サーキットトレーニング	具体的種目の確認とその目的と効果		
	13	フィットネスチェック	筋力、筋持久力、筋パワーの測定方法、全身持久力、アジリティーの各種測定方法		
	14	クーリングダウン	クーリングダウンの方法と実際		
15	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの方法と実際			

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学

別紙1

[illegible]

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PHⅢ／TR・IN・CO・SBⅡ コース

授業科目 (科目ID)	ボランティア活動 20t342／20s243		担当教員 (実務経験)	ボランティア先の担当者およびクラス担任 有 ☐ 無 ☐		
対象年次・学期	各学科就職学年(4年、3年、2年)・集中		必修・選択区分	選択	単位数	1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	ボランティア活動を通じて、直接的に実践力を身につける。					
到達目標	ボランティア活動先における実務遂行を通じてボランティア精神や各種能力・技術力の向上を図る。					
テキスト・ 参考図書等						
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	ボランティア活動先の担当者に、実務遂行状況について、相対的な判断にて評価してもらう。(ボランティア活動先の担当者と当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。) 「ボランティア活動報告書」の提出をもって、活動状況を把握する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	100%				
履修上の 留意事項	学外での活動であり、ボランティア活動先において学習するため、各自の目標設定やスケジュール管理が大変重要となります。活動期間が有意義なものとなるように、コミュニケーションをしっかりと取りながら、目標達成を目指してください。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	2	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	3	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	4	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	5	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	6	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	7	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	8	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	9	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	10	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	11	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	12	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	13	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	14	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	15	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ健康 学科 SB コース
プロ野球／プロサッカー・フットサル／プロバスケットボール 専攻

授業科目 (科目ID)	インターンシップPROⅡ 20s281／20s282／20s283		担当教員 (実務経験)	北村 和弘 有 ☒ 無 ☐ スポーツ指導員		
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	選択必修	単位数	4単位
授業形態	講義・実習		授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	ビジネス視点及び地域社会貢献等において各スポーツについて運営・広報・イベント企画等を理解する。					
到達目標	スポーツビジネスの現場で必要となる様々な観点から企画・立案・発表ができる					
テキスト・ 参考図書等						
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	受講姿勢、受講態度等を総合的に評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	100%				
履修上の 留意事項	将来スポーツビジネスの現場で働くうえで各スポーツに対する知的好奇心を持ち、それを理解できるように積極的に取り組んでください。					
履修主題・ 履修内容		履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション	説明、諸注意、その他。			
	2	世界のスポーツビジネスについて1	世界のスポーツビジネスについて			
	3	世界のスポーツビジネスについて2	世界のスポーツビジネスについて			
	4	世界のスポーツビジネスについて3	世界のスポーツビジネスについて			
	5	世界のスポーツビジネスについて4	世界のスポーツビジネスについて			
	6	世界のスポーツビジネスについて5	世界のスポーツビジネスについて			
	7	地域スポーツビジネスについて1	地域スポーツビジネスについて			
	8	地域スポーツビジネスについて2	地域スポーツビジネスについて			
	9	地域スポーツビジネスについて3	地域スポーツビジネスについて			
	10	地域スポーツビジネスについて4	地域スポーツビジネスについて			
	11	地域スポーツビジネスについて5	地域スポーツビジネスについて			
	12	スポーツサービスと消費者心理1	様々なスポーツサービス手法を学ぶ			
	13	スポーツサービスと消費者心理2	消費者の心理について学ぶ			
	14	イベント企画・立案・発表1	イベントを企画し発表する			
15	イベント企画・立案・発表2	イベントを企画し発表する				

[illegible]